



庄谷怜子教授

# 巻 頭 言

社会福祉学科主任

近藤 久史

2003年4月より支援費制度が始まった。障害者も自己選択、自己決定から自分に適った福祉サービスを受けることができるようになった。自立生活を可能にする手立てを障害者自身が自分で考え、様々な支援を基に、自分らしく生きる場を得ている。自立への欲求が高まり、自主独立の生活を確立する方法を探っている。自分が行きたいところへ行くこと、人と一緒に住むこと、楽しいイベントに参加すること等々、社会参加の機会も増えている。社会福祉において利用者本位とは何かが問われている。常に、利用者の立場から福祉サービスをタイミングよく提供することが求められている。提供される福祉サービスに利用者が満足感を持たねばならない。ほんとうに、利用者の自己実現が可能となる福祉サービスが求められている。

本号は、庄谷怜子教授の退職記念号である。庄谷教授は、社会福祉学科創設時から社会福祉の本源的な学問の方法をもち、一貫して我々の先頭に立ち、社会福祉学科の進むべき道を照らしてくださった。とくに、庄谷ゼミでの学生指導は、真底からの学問の厳しさをもち、社会福祉に求められる専門的な実力を持つ学生を育てられた。学生は、卒業後も庄谷教授と継続して研究会をつくり、社会福祉の問題を研究し続けている。

本号が多くの社会福祉関係者に読まれ、ご意見をいただければと思っている。